ふきだまり

里留

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ふきだまり

【Ｎコード】
Ｎ７２２０Ｉ

【作者名】
里留

【あらすじ】
よく、わからない話。

私は絶望している。

目の前には、先ほどまで黄金の輝きを放っていた札束が数個、薄汚れたコンクリートの上に横たわっていた。無情にも身体を引き裂かれ、ひらひらと宙を舞う“福沢諭吉”。その舞は、一端の踊り子に引けを取らない。

『大丈夫。あなたのかわいこちゃんたちは、すぐに元通りになるわ』

お守りとして持ち歩いていた“神功皇后”が、ジーンズの後ろポケットから顔を出した。一体その根拠はどこにあるのか、と怒りにも似た疑問を覚え、プラスチック・ケースに保護されている彼女をぎゅっと掴む。彼女はそのふくよかな頬をばら色に上気させ、か細い息を吐き出した。気味が悪いので速急にやめてもらいたい。

最後の福沢（おどりこ）さんが地面に降り立ち、私はやっと息を吐き出した。恐る恐る上に向けた瞳は、きっと恐怖に染まっていることだろう。

私はなけなしの勇気を振り絞り、静かに喉を震わした。神功皇后の応援を左手に受け、更に力強く握る。大丈夫だ、私は、やれる。

「……なっ、何を……するんだ……！」

瞬間、背中に浴びるような殺気を感じた。しかも目の前にいる男ではなく、別の人間の。それは唯一つ認識できる事実であって、認めたくない現実でもあった。

神功皇后が言う『早く逃げないと、あなたまで殺されてしまうわ』と。

福沢さんたちは死んだ。桶口さんたちも、また然り。この分だと、

家でくつろいでいる野口さん方も、一人残らず焼き払われてしまうだろう。……いや、すでに事後であったか。
暫く無音の時が進み、気の立った二つの足音が聞こえてきた。カツ、カツ、カツ、カツ、カツ、カツ、カツ……。この人に履かれている靴は、一体どういった心境なのかを問い詰めてみたくなる。いやはや同情同情。
しかしもっとも可哀想で、悲しむべき対象であるのは、そいつらに踏まれている我が子達だ。……嗚呼、愛しい子よ。どうして誰しもが口を噤み、あくどい暴虐の数々を黙っているのか！
一人くらい、助けを求めてもいいはずなのだ。痛い痛いと泣き叫んでも、罰は当たらないはずなのだ。
私はそれだけが悲しくて悲しくて、ただひたすらに涙した。左ポケットの神功皇后は、もう何も言わない。

「……おい、オッサン。気持ちの整理はついたか？」

脳天に落とされる、金属と声。どちらも氷のように冷たく、私の身体を大いに震え上がらせた。

「も、ややや止めてくれっ……」
「こりねぇよなぁ……あんたも。俺ら組織に勝てるわけねぇのに」

カツ、カツ、カツ、カツ、カツ、カツ、カツ、カツ……。

「ひぃっ！」
「いい加減、その命渡せよ」

ガチャ、という金属音がして、こめかみ部分の体温が急激に下がっていった。“銃を突きつけられている”その事実が、私に考える術を奪ってゆく。

私は一旦思考を停止させ、頭の中を真っ白に変えた。想うことも、願うこともできない。
大きな爆発音が耳を劈(つんざ)き、私に小学校の五十メートル走を思い出させた。
仄かに香る火薬、常夏の雲、泥化粧をした体操着。遠くで手を振る親は、霞んでいて輪郭すら見えない。
それでも確かに、あの時は幸せだった。そして私は、銃声とともに地面を蹴るのだ。
全ては幻想で、まやかしだ。……では、私の存在も、始めからなかったのだろう。

私はそれを確かめるため、今一度眠りにつこうとしている。
地面に吸い込まれる頭、気が立った靴、愛しい我が子。それらが一気に脳裏を駆け巡り、私の浅い海は記憶で溢れかえった。
最後に神功皇后の声が聞こえ、ほっと一息。

どうか彼女だけは、安息の地にめぐりあえますように。

私はそんな安い希望を胸に、雨でぬかるんだ校庭を走ってゆく。
どこまでもその道は続き、まるで迷路のようにうねりはじめた。
終着点は、未だ未定。
しかし私の時は、確かにここで終わりを告げたのだ。

次代の私に幸あれ。

（後書き）

なにも考えずに書いたらこうなった。
うーん……自分でも何が書きたかったのかわかりません。
そしてこれが初投稿という……ね。
きっとこれには続きがあります。過去もあります。
そんなこんなで、好き勝手想像してみてください。

補足←
我が子っていういのは、お金のことですね。
神功皇后は、昔の紙幣の肖像に使われていた人です。

お読みいただき、ありがとうございました。
感想お待ちしてます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7220i/

ふきだまり

2010年12月31日02時20分発行